

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	札幌太平グループホーム(1Fのどか)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和7年3月11日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201939-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年から外出行事を再開することができ、コロナ過前の生活を取り戻しております。「家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切に、地域と共に笑顔のある生活」を理念に、一人ひとりの個性と尊厳を大切にできるケアを提供できるように心掛けております。ベテラン職員が多く、9割以上の職員が介護福祉士の資格を取得しております。慣れあいや、職員都合の介護にならないよう初心を忘れず、お客様やご家族様が安心して過ごせる環境づくりとサービスの提供を実践できるよう努めます。健康管理については、協力医による月2回の往診、週1回の看護師訪問にて、主治医と連携を取っております。臨時往診にもすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にあり、施設での看取り実績もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR百合が原駅に近い住宅地にある2ユニット18名が暮らす2階建ての事業所で、法人は介護人材の育成からサービスの提供まで国内有数の高齢者福祉事業所を展開している。法人のオンライン研修システムでの職員研修や介護ICTの導入で職員の働きやすい環境と質の高い介護サービスを提供している。地域とは町内の盆踊りに参加し、運営推進会議を通じ様々な意見も得ており災害時の協力も得られている。利用者の声に耳を傾け希望を確認し、毎月の外出や夕食の計画に取り入れれたり、日々の些細な希望を実現するなど利用者主体の生活が営まれている。面会の制限緩和で家族の面会は以前のように居室で行う事が出来るようになり、利用者との面会を楽しみにしている家族も多い。希望があれば事業所で天寿を全うできるよう、医療関係者や家族と連携を図り、本人の望む最期の過ごし方を尊重し利用者や家族の気持ちに寄り添った終末期ケアを行っている。今年度も看取り支援に尽力しており、利用者家族と毎年看取りについての意思確認書を更新している。勤続年数の長いベテランの職員が多く、職員同士の合った介護技術は利用者や家族の安心に結びついている。事業所の理念のとおり家庭的な雰囲気や尊厳を重視し地域の中で笑顔のある生活を、職員がチームとなり優しく支え楽しく暮らすことが出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念『家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切に、地域と共に笑顔のある生活』の理念に沿ったサービス提供ができるよう共有し、実践している。	事業所独自の理念を作成し、事務所、廊下、フロアに掲示している。職員は理念にそって利用者が笑顔のある居心地のよい生活が継続できるような介護が実践されているか確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、町内の盆踊りへの参加、近隣の散歩など、実施し地域との関りを持っている。	町内会に加入し、地域の情報を収集し町内のリサイクル活動に資源を提供している。地区の中学校の職場体験の受け入れを行っている。近隣へ散歩に出た時は住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、勉強会を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み報告や事故報告などを行い、町内・ご家族様・地域包括等より、それぞれの立場で意見を交換し、サービス向上につなげている。	町内会長、三区町、地域包括支援センターの職員、利用者家族の出席を得て、会議を開催している。利用者状況、職員状況、事故報告、不適切ケア報告、行事、身体拘束、研修、災害対策を報告し、出席者と活発な意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員へ介護保険サービスについての相談等、連絡を行っている。地域包括支援センターの担当者とは運営推進会議の場で、意見をいただいている。	地域包括支援センターの職員から助言を得ている。オムツサービス申請や事故報告等の各種提出物をスマート申請等で提出したり電話で確認をしている。実地監査や保護課の調査にも協力をしており、各担当者とは協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施し、事例を用いながら理解を深めている。自己点検から、不適切ケアの疑いがあり、札幌市へ相談。身体拘束にあたりうる為、現在札幌市の結果報告待ち。	身体拘束適正化のための指針を定め、身体拘束禁止・虐待防止対策委員会を今年度は3か月ごとに5月、8月、11月に開催し、その後は毎月行う事としている。5月と11月に法人のオンライン研修システムを職員が個別で受講し研修報告書を提出している。玄関は防犯目的で夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施の他、同法人のグループホームとの情報共有や意見交換、勉強会を実施。事業所にも伝達を行っている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の機会はあるが、全員ではない為職員によっては差がある。必要性がある場合は活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者は説明をしたのち、不安や疑問点がないか聞き直し、理解を得られている事を確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や計画書の更新時、電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。	利用者の体調変化を電話で報告したり、面会の際に日々の様子を伝えている。ケアプラン作成時にも意見を確認し計画に入れ反映させている。外食の時はメニューから選んでもらい注文している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的面談や、日々のコミュニケーションの中で、意見や提案を聞く機会を設けている。	日々の業務や年度ごとの個別面談で確認した意見から設備環境等を改善している。研修の受講でも希望を確認し受講しやすい環境を整えている。希望の休日や有休休暇もシフトを調整し働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断や自主的に外部研修に職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域管理者会議の参加。同法人のWEB研修に管理者や職員が参加する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談の時間を作り、困っている事ややりたい事、生活について耳を傾け、少しでも安心できる様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談の時間を作り、家族が困っていた事、これからの要望等、聞き取りを実施して関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている。往診医の他、必要に応じて歯科医療につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活の場として寄り添い、尊厳を大切にしながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り状況報告をしながら、課題についても助言を求めたり、情報を得る事で本人への支援に繋がっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の来訪で会話を楽しんだり、近隣の公園に散歩に出かけたり、盆踊りの参加。	感染症対策に関する制限緩和により家族や知人の面会はマスク着用で居室に入室でき、会食も可能となり、職員はお茶を出してゆっくり話ができるように配慮をしている。居室の携帯電話で自由に通話をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う尿居者が同じ席になるように、関係性を意識し、座席替え等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望を聞き取る様に努めている。また聞き取り困難な場合は、職員同士で本人に成り代わって皆で検討している。	会話の難しい利用者には家族からの情報と本人の表情や行動で意向の把握に努めている。会話のできる利用者とは日々の会話で出た事は可能なものから実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や今までの暮らし方や生活環境等、ご家族に書いてもらい、職員が把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月置きに全員でモニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画を作成している	毎月のカンファレンスで職員の気づいたことを検討し情報をスマート介護入力ソフトに記録している。3か月ごとのモニタリングを行い、利用者家族の意見を確認し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを設け、決めつけないサービス作りを心がけ、柔軟な支援が出来る様心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は、近隣の公園に散歩。百合が原公園やファミレス等への外出の機会を確保している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けれる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。必要に応じて、家族と医師が面談できるよう調整している。	隔週で内科の協力医療機関の往診を受けており、毎週看護師が訪問し医師と連携を取り健康管理をしている。他科は緊急時以外、家族が同行受診をしているが通院後に結果を確認している。医療記録はタブレットに入力し、投薬変更や体調の変化を家族へ連絡している。	

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて看護師が来ており、身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。摘便や巻き爪切りなど、介護職員ではできないことを協力していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取り合って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、ご家族も含めて話し合いを行っている。1年に一度看取りについての意思確認書の提出をお願いしている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を取り交わし、毎年看取りについての意思確認書を提出してもらい希望を確認している。今年度も数件の看取りを行い、職員は法人のオンライン研修システムで看取りについての研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。救急搬送希望者が分かる様に、職員が分かるように掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会の連絡網を作成してもらっている。又、合同の災害訓練実施について、運営推進会議で協力同意を得ている。	6月と3月に夜間想定火災訓練を行い、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)に基づき、11月に地震及び水害の机上訓練を行っている。町内会と合同訓練実施の協力が得られている。災害備蓄品にポータブル電源も用意してある。	災害時に想定される指定避難先で、利用者が避難時に困難な事がないかを検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。	職員は法人のオンライン研修システムにて接遇の研修を毎月受講しており、職員同士でも人格の尊重などについて話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服やスキンケア用品の継続、訪問理美容の利用等ご本人の希望に合った身だしなみができる様支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何か食べたい物ありますか」と直接聞いて、イベント食や外食行事などを企画している。好き嫌いの好みを職員間で共有している。食器拭きはお客様数名で毎日行っている。	ファストフード、和食、中華料理、ハンバーグなど利用者の希望を取り入れた外食を頻繁に行っている。また、寿司や釜飯などを出前することで、普段とは違った食事の楽しみを味わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な場合、歯間ブラシや舌ブラシの使用、お手伝いをし仕上げ磨きを行っている。必要に応じて、訪問歯科の利用し、口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の有る方には声掛け確認、難しい方は定期的に誘導しトイレでの排泄を大切にしている。	自立してトイレに行ける利用者もいるが、多くの利用者には声かけを行いトイレへ誘導している。すぐに確認できることから、記録はまず用紙に記入してその後タブレットへ入力するようしており、記録をもとに支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日3回の体操と6回の水分提供を行っている。難しい時は、主治医に相談しながら便薬の調整を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。本人の状況に応じて入床前に入浴している。	基本的には入浴が可能な日を週に6日設けている。午前中に入浴する利用者が多いものの、希望によっては午後や夜間での入浴、または別日での対応をしており、利用者に合わせた入浴ができるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には温かい飲み物を提供したり、足を温める等安心して眠れるよう支援している。眠るまで付き添いが必要な方は入眠まで付き添っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみやお手伝いを毎日行っている。外の空気を吸いに行く、庭に行く等、気分転換も行っている。			

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fのどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月から11月まで外食レクを実施。外食の流れで公園やペットショップ等、立ち寄りしている。外出の際はご家族にも声を掛け参加していただいている。	紅葉を見るために公園へ、桜の時期には河川敷へドライブに出かけている。百合が原公園ではリリートレインに乗り、沿線の植物を楽しむこともある。日常的には、玄関先でお茶を飲んだり、近所の公園に散歩へ出かけるなど外出する機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は実施していないが、不安になる方には、わずかなお金と通帳を本人にご家族が預け安心を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や年賀状等ご家族様からの手紙はご本人へお渡しし、読み上げている。携帯電話の使用も可能にし自由に話すことが出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、事故に繋がらないよう配慮した空間を心がけている。行事での写真を掲示し、ご入居者様や来訪されたお客様にも楽しんでいただいている。またお客様と一緒に季節の装飾を作り飾っている。	大きな窓のあるリビングではソファが置かれており、利用者は好きな場所で好きなことを楽しむことができる。外出レクなどの行事の写真を共用スペースに掲示しており、思い出を共有することができる。トイレのドアは車椅子が入りやすいよう開き戸にするなどの配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている。廊下の奥に椅子を置き、窓から花が見える場所で、静かに外が見える場所を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物で揃えるのではなく、今まで使っていた馴染みの物や写真等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。	部屋には防火カーテンとクローゼットが備え付けで設置されている。ベッドも施設で準備をしており、利用者の状態を考慮して、介護用ベッドを準備する場合もある。利用者はテレビやラジオなどを持ち込み居心地よく過ごすことができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	札幌太平グループホーム(2Fそよぐ)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和7年3月11日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0190201939-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年から外出行事を再開することができ、コロナ過前の生活を取り戻しております。「家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切に、地域と共に笑顔のある生活」を理念に、一人ひとりの個性と尊厳を大切にできるケアを提供できるように心掛けております。ベテラン職員が多く、9割以上の職員が介護福祉士の資格を取得しております。慣れあいや、職員都合の介護にならないよう初心を忘れず、お客様やご家族様が安心して過ごせる環境づくりとサービスの提供を実践できるよう努めます。健康管理については、協力医による月2回の往診、週1回の看護師訪問にて、主治医と連携を取っております。臨時往診にもすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にあり、施設での看取り実績もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念『家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切に、地域と共に笑顔のある生活』の理念に沿ったサービス提供ができるよう共有し、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、町内の盆踊りへの参加、近隣の散歩など、実施し地域との関りを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、勉強会を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み報告や事故報告などを行い、町内・ご家族様・地域包括等より、それぞれの立場で意見を交換し、サービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員へ介護保険サービスについての相談等、連絡を行っている。地域包括支援センターの担当者とは運営推進会議の場で、意見をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施し、事例を用いながら理解を深めている。自己点検から、不適切ケアの疑いがあり、札幌市へ相談。身体拘束にあたりうる為、現在札幌市の結果報告待ち。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施の他、同法人のグループホームとの情報共有や意見交換、勉強会を実施。事業所にも伝達を行っている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の機会はあるが、全員ではない為職員によっては差がある。必要性がある場合は活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者は説明をしたのち、不安や疑問点がないか聞き直し、理解を得られている事を確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や計画書の更新時、電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の面談や、日々のコミュニケーションの中で、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断や自主的に外部研修に職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域管理者会議の参加。同法人のWEB研修に管理者や職員が参加する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談の時間を作り、困っている事ややりたい事、生活について耳を傾け、少しでも安心できる様心がけている。本人への聞き取りが困難な時は家族からの聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談の時間を作り、家族が困っていた事、これからの要望等、聞き取りを実施して関係性作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活するうえでの家事等、本人ができる事を一緒に行ったり、お任せしてお願いする事もある。本人の意欲を引き出せるように言葉をかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り状況報告をしながら、課題についても助言を求めたり、情報を得る事で本人への支援に繋がっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会、外出行事も再開し定期的に楽しめるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく団らんでできる環境作りとして、席替えを行ったり、一緒にできるレクリエーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望を聞き取る様に努めている。また聞き取り困難な場合は、職員同士で本人に成り代わって皆で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前にご本人やご家族様と面談を行い、生活歴や今までの暮らし方や生活環境等を直接聞き取りを行い、記録用紙にも記入のご協力をいただき、職員間で共し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認が出来るようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決めつけないサービス作りを心がけ、柔軟な支援が出来る様心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用が出来ていないが、直接会う事は出来ないが、ご近所付き合いの架け橋にはなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けれる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて看護師が来ており、身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。摘便や巻き爪切りなど、介護職員ではできないことを協力していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取り合って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、ご家族も含めて話し合いを行っている。1年に一度看取りについての意思確認書の提出をお願いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。救急搬送希望者が分かる様に、職員が分かるように掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会の連絡網を作成してもらっている。又、合同の災害訓練実施について、運営推進会議で協力同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努め、職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服やスキンケア用品の継続、訪問理美容の利用等ご本人の希望に合った身だしなみができる様支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの好みを職員間で共有している。行事の時好きな物を提供(お寿司やケーキ)し喜んで頂いている。外食行事を企画し、レストランなどでランチの機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。嚥下状態に合わせて、ムース食やゼリーを提供し水分摂取を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な場合、スポンジブラシ等を使用し、仕上げ磨きを行っている。必要に応じて歯科医療に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレへ誘導しなるべくトイレで排泄出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には少しでも水分を多く摂って頂ける様に提供したり、朝食時にヨーグルトや牛乳を提供し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には温かい飲み物を提供したり、足を温める等安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみやお手伝いを毎日行っている。外の空気を吸いに行く、庭に行く等、気分転換も行っている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよぐ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行運動や気分転換等目的は様々で一人一人に合わせて取り組んでいる。公園まで散歩に行く等戸外に行っている。花見やイルミネーションを見に行くなど、希望に合わせて外出している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や年賀状等ご家族様からの手紙はご本人へお渡しし、読み上げている。携帯電話の使用も可能にし自由に話すことが出来ている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、事故に繋がらないよう配慮した空間を心がけている。またお客様と一緒に季節の装飾を作り飾っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや写真等等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。			